

厳選良問

～ 仮定を活用して不思議を探す♪ ～

分野

医療・心理系分野

出典

社会福祉士試験(第30回-問題7)

問題

問題 廃用症候群に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 関節拘縮は起こりにくい。
- 2 筋の萎縮は起こりにくい。
- 3 高齢者では起こりにくい。
- 4 起立性低血圧が起こりやすい。
- 5 急性期リハビリテーションで離床を早期から行うことで起こりやすい。

＝＝

資格別試験対策

社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	保育士
★★	★★	★★★	★★★	★

注) ★★★…必ず学習!! ★★…できれば学習! ★…余裕があれば確認 ×…学習しなくてOK

試験対策ポイント解説

問題自体が簡単なので、すんなり正解が選択肢4と分かった受験生も多いかと思えます。それはそれでOKです。ただ、「廃用症候群ってなんだ?」と思った受験生は、試験前に確認しておくことをお勧めします。

もしも、全く分からないということであれば、このような形式の問題には、仮定を活用しましょう!

正解(○)は1つしかないなので、残りの4つは「×」になり、選択肢の内容も正反対にすることで正解(○)となります。例えば、選択肢3を「○」だと仮定すると、選択肢から「高齢者に起こりやすい廃用症候群として、関節拘縮や筋萎縮はみられやすいが、起立性低血圧はみられにくい。」という一文を作ることができます。高齢者の特徴などを多少学習していれば、この文に違和感を抱くと思えます。こんな感じで選択肢ごとに「○」だと仮定していけば、しっくりくる一文が作成でき、正解が分かるかと思えます。

試験でこのような形式の問題が出題され、全く分からなかった場合には、是非『仮定』を使用してみてください。

